

平成 28 年度 学校 自己 評価 表 (最終評価)

<b>中長期目標 (学校ビジョン)</b>	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇氣と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心
---------------------------	--

<b>今年度の重点目標</b>
-----------------

1 学力の向上と進路志望の実現 (1)授業規律の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 (3)キャリア教育の充実と進路目標の実現 2 自主性と自律心の育成 (1)基本的な生活習慣の確立 (2)部活動、生徒会活動への主体的参加 (3)学校行事への積極的参加 3 社会に関心を持ち、地域に貢献する人材の育成 (1)地域探究の時間・地域創造ハイスクールサミットの充実、高校生議会への積極的参加 (2)ボランティア活動への積極的参加 (3)主権者教育の充実
--

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年 度 当 初		評 価 結 果					
評価項目	具体項目	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
学力の向上と進路志望の実現	授業規律の確立	○授業規律が確立されており、どの生徒も授業を大切にし、真剣に授業に取り組んでいる。 <指標>アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価AまたはBが80%以上	○始業時間が守られない時があり、挨拶も十分にできていないといえない。 ○授業に集中しきれない生徒がみられる。	○教師が授業開始時間を必ず守り、生徒が授業に遅れないよう指導を徹底する。また、挨拶もできるまで何度も繰り返し指導する。 ○授業中の発問や内容を絶えず検証し、生徒が授業に集中できる授業作りを行う。その際、他の教師に参観してもらうなど授業改革を進める。	○アンケート「授業に集中して取り組んでいる」の評価AまたはBが77%であった。 ○開始時間前に生徒の移動を促し、始業の挨拶も開始チャイムで始めることができた。 ○公開授業を通して、各教科の教師同士の参観と意見交換を行い、各授業の検証を行っていたが、教科によっては授業が同じ時間にあり、参観できない教科もあった。授業アンケートを各自が検証し、後半の授業にいかしていくことができた。	B	○公開授業の年実施する回数や設定の仕方を工夫し、同じ教科や違った教科の教師が参観できるように授業の設定を行う。
	力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫	○教科の基礎基本が定着しており、学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○授業が工夫されており主体的に学習に取り組んでいるので、学ぶ力が高い。 <指標>アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが80%以上 校外模試等の全国偏差値が高い。 国立大学をはじめとする上級学校への進学意欲を持つ生徒の増加。	○生徒の基礎力に差があり、その定着に努力している。 ○授業の工夫がなされているが、生徒の十分な学力が定着できていない。 ○授業の予習や復習をしていない生徒が多い。	○各自の授業の取組みを検証するために、各学校の公開授業への参加、外部講師の招聘によって、多くの教師の意見を吸収しながら、生徒が主体的に学ぶ力を育成する。 ○授業と並行して基礎力を高めるために、生徒一人一人の学力を見極め、個別の課題を与えていく。また、個別指導等により、弱点の強化を行う。その上で、授業内容を高めていく。 ○具体的な予習・復習をプリント等で指示し、提出させ確認する。	○アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AまたはBが73%であった。 ○地理歴史科を除く教科が、県内の公開授業へ参加し、各教科会で情報交換を行っていた。アクティブラーニングの研修のために、産業能率大学の小林教授を招聘し、物理基礎の授業を全ての職員が参観した。しかし、理科を除く教科でアクティブラーニングの実践授業ができなかった。 ○各教科や各クラスで、生徒一人一人の学力を分析し個別の課題を十分に与えることができなかった。 ○各学年会で、特進クラスの模試の復習・見直しチェックや外部テストの個別診断レポートを使用した個別指導を徹底し、弱点の強化を行っていた。 ○国語・数学・英語の三教科は予習・復習をプリント等で指示し、提出させ確認していた。 ○教科担当者による個別面談を行っていく中で、授業への満足感や主体的に参加する意識を育てていった。	B	○個々の生徒の学力を把握し、それぞれに必要な力を育てていくために、適切な課題・教材を各教科で検討し学習を進めていく。 ○アクティブラーニングの実践授業を各教科で行う。
自主性と自律心の育成	キャリア教育の充実と進路目標の実現	○多様な進路志望にも対応し、普通科進学校として上級学校を希望する生徒の進路実現が達成されている。 ○体系的なキャリア教育が進められており、低学年から進路を考えることができる。 <指標>アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AまたはBが80%以上 国立大学10%、私立大20%、就職100%合格	○進路実現の達成の指標に対し、特に国立大学への進学、公務員への就職状況が芳しくなく、目標達成に必要な学力、行動力の養成が不十分である。 ○アンケート結果は概ね指標を満たしている。しかし実態として、自分が目指す分野の特徴や、その分野へ進むためにどんな力が必要なのか、具体的なイメージができていない生徒は少ない。	○生徒の視野を拓け、早期に具体的な将来設計を描かせるために、進路講演会等と対応させながら、進路面談を緻密に行う。 ○生徒の現状と目標に対し適切な学習法を身につけさせるため、担任面談と連携しながら教科指導を行う。 ○個別指導の充実を図るため、受験指導の指導法や教材を教員間で研究し、共有する。	○外部模試の結果分析会や進路検討会を計画的に実施し、個々の生徒の学力や進路志望の現状を共有し、進路指導に還元することができた。 ○受験指導については、生徒の志望にあわせて教員も小グループを組織し、指導方法や教材の共有を図りやすい形で指導することができた。 ○全体における進学率は、国立大学約6%と苦戦したが、私立大学は約20%で、概ね目標通りであった。 ○就職の合格率は100%と、目標を達成することができた。	C	○生徒の進路面談において、各生徒をどのように導くべきか、各学年における到達目標を明確にし、指導していく。また、それに対して進路指導部からも適切な情報共有を随時行っていく。 ○受験指導については、受験を通して生徒を成長させることを目標とし、個々の指導に対して、学年、担任、指導担当教員の連携がよりスムーズになるよう工夫する。 ○進路行事での体験を刺激だけで終わらせないよう、進路目標に結びつけるよう面談指導していく。
	基本的な生活習慣の確立	○生徒の基本的な生活習慣が確立されており、落ち着いた生活できている。 <指標>問題行動発生件数の減少。服装指導等指導回数の減少、遅刻者数の減少。	○昨年は、服装の指導や問題行動に対する指導を行う場面が多かった。今年度は基本的な生活習慣の確立に向けて、学校を挙げて取り組もうとしている。	○5Sの徹底(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ①遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。 ②教室や公共の場所からの私物の撤去、及び整理整頓を徹底する。	○意識が高くなり、より良くという到達目標を意識した行動が見られるようになって来た。 ○学年、担任の粘り強い指導で、5S等も改善された。	B	○ポイントを絞って指導することで、徹底させることを学ばせる。また、そのことにより、5S等の必要性を理解し、物事に対する考え方に改善が見られるようになってきた。さらに、結果としてその物事に対する考え方の改善から基本的な習慣の確立に近づけていきたい。
社会に関心を持ち、地域に貢献する人材の育成	部活動、生徒会活動への主体的参加	○体育コースの生徒の意識レベルが高く、学校生活や部活動において範となる生徒が多い。 ○全校生徒が部活動に主体的に参加し、活発で質の高い活動により、県大会優勝など高い実績を上げている。 ○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を高め、人間力を向上させている。 <指標>部活動加入率100% 個人団体合わせて県大会優勝5部以上 全国大会入賞3部以上。 生徒会行事に関する生徒アンケートで高い達成感がある。	○体育コースの生徒が、部活動のみならず、学校生活においてリーダー的な役割を果たしているが、数は多くない。 ○生徒会執行部が「北栄町高校生議会」に参加するなど、応援団リーダー、各委員会活動に主体的に参加し、充実した活動に取り組む生徒が徐々に増えている。 ○部活動加入率全体92%(1年91%、2年94%、3年93%) ○県大会優勝:団体(4)・個人(16) ○全国大会入賞:団体(4)・個人(8) ○中国大会・近畿大会出場(レスリング・陸上・ソフトボール(男子)・山岳・バレー部(男子)・水球・水泳・囲碁・音楽・美術・書道) ○全国大会出場(レスリング・陸上・水球・山岳・新聞・美術)	○体育コースの独自授業における「異年齢交流」において人間性を培い、「キャンプ等の実習」において協調性を養う。 ○生徒会執行部が各委員会と連携し、自治活動を活性化させる。 ○育英祭実行委員会からの、企画運営に関わる説明をできるだけ丁寧に行い、各生徒が自分の務めを自覚し動けるようにする。 ○部活動において、日々の活動に計画性を持ち、課題を克服し、レベルアップを図る。 ○部活動単位でのボランティア活動への参加を促し、様々な場面で中心となって活動できる主体性を養う。 ○定期的な部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(総体明け・夏休み明け・新人戦明け)	○様々な交流の企画・運営を経験することで、生涯スポーツの指導者としての資質を養うとともに集団の中でのリーダーシップや個人としての責任感も養われてきている。キャンプ実習においては集団生活を通してお互いの友情を深めるとともに社会生活における規律や望ましい態度を身につけることができた。 ○育英祭では実行委員会が中心となり、全校生徒、特に下級生をよく指導し、成功裏に終わることが出来た。 ○部活動参加状況は、学事支援システムを活用し、各顧問がリアルタイムで確認できるようになった。 ○球技大会では、生徒会執行部と体育委員会が協力して活動することができ、円滑に大会を運営することができた。	B	○ただ単に「パートナーと仲良く交流する」で終わることなく、人間関係の向上や相手への思いやり、自分の伝え方などを学ぶ交流とし、人間としての尊厳や教育の視点が持てるようになる。 ○2学期に実施された球技大会では、ウィークデイにも関わらず大会等で参加できない生徒がおり残念であった。来年度はLHRの実施曜日が変わるため行事の日程については、注意が必要である。 ○部活動活動状況については、結果を含めて学事支援システムで確認が可能であるので、積極的に活用してもらうよう顧問に徹底する必要がある。 ○部活動単位でのボランティア活動については、引き続き呼びかけていく。
	学校行事への積極的参加	○全生徒が積極的に学校行事に関わり、達成感を得ることで、他者との協調性や思いやりを身につけ学校生活を有意義に過ごすと共に人間力の向上がみられる。 <指標>アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価Aまたは評価Bが85%以上	○学校行事によっては生徒間の連携がうまくできていないものもあり、充実した内容になっていない行事もある。	○生徒が主体的に行動できるよう、企画、立案から生徒を組織し、どのようにしたら全校生徒が動くかをリーダーの生徒を中心に考えさせる。 ○一つ一つの行事について十分に検討し価値の高いものにしていく	○1学期に行われた育英祭では、実行委員自らが既存の企画以外のさまざまな新規の企画を行い、実施することが出来た。 ○2学期に行われた球技大会では、執行部が体育委員会と協力し、競技アンケートの実施から当日の運営まで主体的に取り組むことができた。 ○来年度の育英祭についても、執行部を中心として企画を進めることができた。	A	○来年度の育英祭についても、年度内に執行部を中心とした準備委員会を組織し、内容が充実するよう詳細に検討をしていく。
社会に関心を持ち、地域に貢献する人材の育成	地域探究の時間、地域創造ハイスクールサミットの充実、高校生議会への積極的参加	○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組む、地域に関する関心が高まっている。 ○第2回「地域創造ハイスクールサミット」を開催し、昨年より多くの学校が参加・観覧し、昨年以上に研究協議が充実する。 <指標>参加校・観覧校、観覧者が昨年度より増え、提言も深まり、アンケートで研究協議の充実が評価されている。	○2年生での総合的な学習の時間をはじめ、高校生議会やキャリア探究など、地域に対する関心が十分に高まっている。今年度も、2年生で16グループで探究学習をすすめて、提言を発表する予定である。 ○昨年度の「地域創造ハイスクールサミット」の反響も大きく、参加校も観覧者も増加すると思われる。	○企画研修部で議論を続け、必要に応じて担当教員や地域講師との意見交換会を実施する。 ○生徒と担当教員と地域講師が、十分に意思疎通をはかる。 ○サミットの発表形態や参加校の検討を含め、実施要項を早期に作成する。 ○サミット実行委員会や生徒実行委員会を早期に立ち上げる。 昨年度の反省を活かし、生徒討論会や生徒交流会を充実させる。	○事前、事後アンケートから「将来は鳥取で働きたい」「高校生が地域活性のために提言することは必要だ」などと地域探究の時間での活動を通して生徒達の意識が大幅にプラスに変化した結果が得られている。 ○サミットは残念ながら鳥取中部地震で中止になったが、校内発表会では前年度より充実した発表や発表の姿勢を示すことができた。	B	○生徒一人一人が地域探究の時間をとおして「自主性」「創造力」「協働する力」を身につけられるよう内容を充実していく。 ○来年度はワークショップなど多くの生徒が関われるよう一層の工夫を図り、生徒にとっても参加者にとっても爽りあるものとしたい。
	ボランティア活動への積極的参加	○全生徒が積極的にまた主体的にボランティア活動に参加することにより、他者への理解と自己の人間力を向上させている。 <指標>全校生徒が最低1回はボランティア活動を行っている。	○ボランティアに参加する生徒は増えてはいるが、全く参加していない生徒も少なからずいる。	○部活動単位でのボランティア活動への参加を促し、様々な場面で中心となって活動できる主体性を養う。	○昨年度と比較し、1月現在でのボランティアに参加している生徒の数は減っている。しかし、声かけにより、少しずつではあるが、ボランティアへの参加者が増えた。 ○震災関連のボランティアに関しては、積極的な参加が見られた。 ○中間評価の段階では、積極的にボランティアに取り組もうとする生徒は特定の生徒となっていたが、これまでボランティアに参加したことのない生徒が参加するなど、指標達成に向けた取り組みができた。	B	○生徒が活動している様子をHP等により多く公開し、生徒同士がお互いに高めあっている環境作りを努めたい。 ○昨年度と比べて、部活動単位での参加が減っているため、各部顧問の先生に声かけを行っていく。 ○ボランティア参加は、就職や進学の際の自己PRに活用できるものであると考えられるため、進路部との連携も図り、生徒への個別の声かけを行っていく。
	主権者教育の充実	選挙制度の改正による高校生の参加について、その重要性を認識し、主体的に行動できている。 <指標>主権者教育として年に1回は実施する。	○主権者教育に取り組んできているので、主権者としての自覚が芽生えつつあるが、自分のこととしての考えに発展したり、具体的な投票行動に繋がっていくのかは分からない。	○学年の活動や授業において主権者教育に取り組む。 ○専門機関に来ていただき講演をしてもらう。 ○地域探究との関わりのあるボランティアに対し、積極的に紹介をしていく。	○2年生で主権者教育を行う予定である。 ○高校生議会を実施し、地域連携だけでなく主権者としての自覚を持たせることができた。	B	○さまざまなボランティア活動に積極的に参加したり高校生議会に参加したりして主権者としての意識をさらに高めたい。